

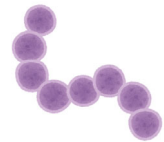


溶連菌感染症



どんな病気？

「溶連菌」は正式には「A群溶血性レンサ球菌」と呼ばれる細菌で、主にのどに感染し、のどの痛みや発熱を主な症状とする「咽頭炎^{いんとうえん}」や「扁桃炎^{へんとうえん}」を引き起こします。幼児から学童期のお子さんによく見られる病気です。



主な症状

以下の症状がよく見られます。

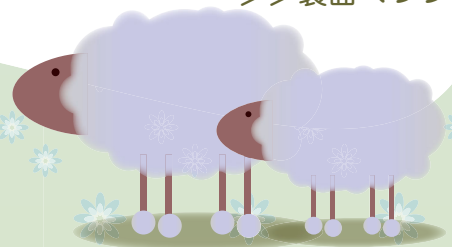
症状	発症頻度(目安)	内容の説明
のどの痛み	非常に高い	飲み込むと強く痛ることがあります。発症の最も典型的な症状です。
発熱	高い	38～39℃の高熱になることが多いです。微熱のみのケースもあります。
頭痛	高い	発熱や全身症状に伴って現れます。
首のリンパ節腫脹	中	耳の下やあごの下が腫れて痛むことがあります。
腹痛	中	特に小児に多く見られ、虫垂炎(盲腸)と間違えられることもあります。
嘔吐	中	腹痛と一緒に見られることがあります。
イチゴ舌	低～中	舌の表面が赤くザラザラし、イチゴのように見える状態です。
発疹 しょうこうねつ (猩紅熱)	低～中	細かい赤い発疹が体に出てザラザラした手触りに。痒みを伴うこともあります。3～5日で自然に消えます。30～60%の人に落屑が見られます。
咳・鼻水	低	ウイルス感染と違い、咳や鼻水はあまり目立ちません。
らくせつ 落屑	低	感染後1～2週間で、手足の指先、脇や首、足の付け根や顔の周りの皮がむけることがあります。特別な治療は不要で、通常のスキンケアや保湿で様子を見ます。1～2週間で落ち着きます。



診断と治療

- 診断は、綿棒で喉をこすって調べる迅速検査で行います。結果は5～10分程度で出ます。
- 治療には抗菌薬(抗生物質)を使用します。通常はペニシリン系のお薬を10日間服用します。途中で症状がよくなっても、最後まで飲みきることがとても大切です。
- 抗菌薬を正しく服用することで、症状の早期回復だけでなく、リウマチ熱のような合併症の予防にもつながります。ただし、急性腎炎^{きゅうせいじんえん}については、抗菌薬を使っても発症することがありますので、治療後も尿の色や量、むくみなどにご注意ください。

>>裏面へつづく



溶連菌感染症

合併症について

通常は治療により速やかに回復しますが、ごくまれに以下のような合併症が起こることがあります。

急性腎炎（感染者の約0.1～0.3%）：

溶連菌感染から1～3週間後。血尿（赤～茶色の尿）、尿の回数が少ないむくみ（特に顔）、高血圧などが見られます。多くは自然に治りますが、入院や定期的な尿・血圧の経過観察が必要になることもあります。

リウマチ熱（非常にまれ、日本ではほぼ消失傾向）：

関節の痛みや腫れ、発熱、心臓への影響（心臓弁膜症）が出る可能性があります。

※リウマチ熱は、抗菌薬の服用によって予防できることが知られています。

【補足】高血圧性脳症について

- 溶連菌感染から1～3週間後。頻度は非常にまれ（感染者の10万人に1人以下）ですが、腎炎に伴って、急激な高血圧によりけいれんや意識障害を起こす「高血圧性脳症」が発生します。尿の異常が目立たない場合でも突然発症することがあります。
- けいれん・激しい頭痛・嘔吐・視覚異常などの症状がある場合は、救急受診してください。

登園・登校の目安

厚生労働省のガイドラインでは、抗菌薬の内服開始後24時間以上が経過し、かつ症状が改善していれば登園・登校が可能とされています。（感染力が大きく下がるため）ただし、お子さんの体調が完全に回復しているかは、主治医と相談して判断してください。

ご家庭での注意点

- 処方された薬は最後まで飲みきることが大切です。
- 連菌感染後1～3週間のあいだに体調の変化があれば、尿の色やむくみ、頭痛・けいれんなどの有無にご注意ください。
- 感染力は比較的強く、家庭内で約20～40%の確率で感染するといわれています。咳やくしゃみによる飛沫感染、手やおもちゃなどを介した接触感染で広がります。特に、小さなお子さんや兄弟姉妹間では感染しやすくなります。予防の基本は「手洗い・咳エチケット・接触を減らすこと」です。
- ご家族の中に似た症状の方がいる場合は、早めの受診をおすすめします。
- ご家族の中に症状がない保菌者がいることもあります。
ただし、症状がない場合は通常は検査・治療の必要はありません。

2025年7月8日

自由が丘メディカルプラザ

福井 舞

日本専門医機構認定小児科専門医

日本アレルギー学会認定アレルギー専門医

